

岩手県田野畑村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ° 2024

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 教育を通じたまちづくり、地域活性に携われます。
- 村長をはじめ住民の方々に直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携実・地域貢献」実践領域の対象プログラムです。

テーマ

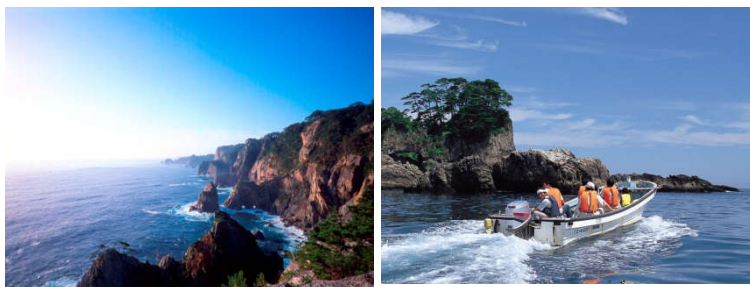
**田野畑中学校の授業
「仮会社 Comaru」を提案せよ！**
～子どもたちが地域に誇りと愛着を持つ村づくりをめざして～

岩手県田野畑村は、人口約 3,000 人の農山漁村です。年々人口は減少し、岩泉高校田野畑分校が平成 24 年に閉校してからは、近隣自治体の高校進学後に多くの若者が村に戻ってきません。田野畑中学校では、村の歴史や地域資源を知り、村の魅力を発信することを目的として、全校生徒が社員となり村の資源を活かしたオリジナル商品（特産品）の開発と制作、販売までを手掛ける授業「仮会社 Comaru（コマル）」を進めています。授業は今年で開始から 10 年目を迎えており、特産品の開発に限らず授業内容の進化と充実が求められています。

そこで、本ワークショップでは、田野畑村の子どもたちが地域を深く理解し住み続けたいと思える、たとえ村を出て行っても田野畑村を誇れる村づくりをすすめるための一つとして、田野畑中学校の授業案を提案いただきます。皆さんのなかには、同じように地域の学びや地域に関わってきた方もいらっしゃると思いますが、教育を通して生まれ育ったむらの未来と自分たちの今後をどうしたら主体的に考えることができるか。皆さんならではの視点や提案を期待しています。

田野畑村の魅力

田野畑村は岩手県沿岸北部に立地する臨海型の農山漁村です。海産物だけでなく、酪農が盛んで乳製品が特産品として自慢です。沿岸部には財団法人日本交通公社による観光資源評価の「自然資源 海岸・岬の部」で唯一の特 A 級の評価を受けた景勝地「北山崎」をはじめとした絶景が広がり、また、現役の漁師がガイドを務める「サッパ船アドベンチャーズ」などの体験型観光も盛んな村です。



募集概要

募集期間	2024年5月31日（金）～6月16日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	事前説明会（オンライン）について【応募の際には必須参加】 日程：6/5（水）、6/11（火）、6/13（木）12:30～12:55※全日程共通 ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:55～13:10）も上記の日程で実施します。 事前説明会参加後、以下の手順か右の QR コードのリンク先から応募してください。 ① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2024 夏編」を検索 ② 「地域連携ワークショップ 2024 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は2024年6月27日（木）までにWasedaメールにて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、田野畑村内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 現地調査自己費用負担：往復交通費（自宅⇄現地集合場所）・宿泊費・食費等 <交通費目安> 東京駅～盛岡駅～宮古駅 片道 17,210 円（新幹線／指定席、高速バス） <宿泊費> 思惟創館（相部屋）3,800 円/泊 ※10 人参加の場合 ※但し、後日村から往復交通費、宿泊費、現地活動費（食費除く）として約半額の補助、さらに大学より地域連携ワークショップ活動助成金として 13,210 円の補助があり、往復交通費、宿泊費の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いとはなりません。 ⑩ グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携・地域貢献」の対象プログラムです。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※新型コロナウイルス等の状況によって、プログラム内容等に変更が生じる場合があります
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2024 年 7/11（木） 17:00～19:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明 ※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。
②	交流会 @早稲田大学	7/17（水） 17:00～19:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。
③	事前調査期間	オリエンテーション ～8/20（火）	・田野畑村やテーマに対する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・現地ヒアリングに関する事項（希望先、質問内容など）を検討し、8/6（火）までに自治体へ提出 ・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
④	現地調査前 オンラインヒアリング （@Zoom）	7/25（木）、 7/30（火）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑤	フィールドワーク @田野畑村	8/19（月）～ 8/22（木） 【3泊4日】	・田野畑村の関連施設などを訪問 ・村長をはじめ、地域・テーマの関係者の方々へのヒアリングを実施（佐々木村長懇談：8/20（火）9:00～10:30）
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	8/28（水） 10:00～17:00	・中間報告会前にグループワーク ※時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑦	中間報告会 @早稲田大学	9/3（火） 10:00～12:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者、学校関係者（@オンライン）、大学職員が参加予定 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
⑧	対面グループワーク @早稲田大学	9/5（木） 10:00～17:00	・中間報告会での指摘をふまえてグループワーク ※時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑨	プレ報告会 @早稲田大学	9/11（水） 10:00～12:00	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※進捗状況によっては左記日程に追加で実施する場合があります。
⑩	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～9/16（月・祝）	・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑪	最終報告会 @早稲田大学	9/17（火） 16:00～18:00	・村長など自治体関係者や田野畑中学校校長、地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 19:00 頃となります。

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いがなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもつて様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）